

## 地表・地質踏査結果

当該地においては、地山や基盤層が観察できる露頭は少なく、調査地北側付近及び岩手県側の南部から南東部にかけてわずかに露頭が認められる。露頭観察の結果は写真に注釈を加えルートマップに代表的なものを添付した。また、踏査結果は地質平面図にまとめた。

調査地の地質構成は表 - 1に示すとおりである。

表 - 1 地 質 構 成 表

地質時代		地 層 名	記 号	記 事	
新 生 代	第 四 紀	廃棄物	パーク	wa(b)	木材繊維を主体とする
			焼却灰	wa(a)	焼却灰を主体とする
			R D F	wa(r)	固形肥料を主体とする
			汚 泥	wa(o)	汚泥類を主体とする
			混合土	wa(m)	廃棄物と土質の混合物
		埋 土	b	廃棄物を含まない埋土及び廃棄物の覆土。主にローム質の土質。	
		崖錐堆積物	d t	山裾や谷沿いに分布する軟質で緩い礫・砂・粘性土。	
		降下火砕物2	af2	パミ、スリア等を主体とする火山性噴出物で軽石、浮石を含む未固結層。	
		降下火砕物1	af1	ロームを主体とし火山灰も含む細粒の火山性噴出物からなる未固結層。	
		火砕流堆積物 凝 灰 岩	Pf	当該地においては凝灰岩に相当する硬質な礫の混入はなく、全体に軟質な固結層。	
凝灰角礫岩	Tb	粒径の不均一な硬質安山岩礫を多く含む。マトリクスは凝灰質で全体に軟質な固結層			

### < 調査地の地質及び廃棄物の分布 >

調査地の地質は、火山性噴出物からなる降下火砕物と凝灰岩基質の基盤層に大別される。降下火砕物は、細粒分を主体とするローム優勢層(降下火砕物1)と主にパ

ミス，スコリア，軽石等の粗粒物層（降下火砕物2）に分類される．調査地をマクロに見れば地表付近はロームで覆われており，調査地北部と南側でパミス層が互層状に介在している．パミス層のほとんどは粘土化しているため，つぶすとローム同様に粘土化が著しい．また，露頭では観察されないが，降下火砕物層の下位には不均一な硬質安山岩礫を多く含む凝灰角礫岩及び凝灰岩の分布がボーリング調査で確認された．

人工地盤としては，廃棄物を含まない埋土と廃棄物層が表層の大部分を覆っている．廃棄物層は5種に大別でき，バーク，焼却灰，RDF，汚泥，廃棄物と土質の混合土に分類できる．

#### <地質構造>

調査地露頭で測定したローム・パミス層の層理面の走向・傾斜は，別添のルートマップに示すとおりである．層理面の走向はおおむね北西方向で，南西に10～20°で緩く傾斜している．ただし，調査地南側になると走向は東 - 西の傾向が強くなり，南に10～20°で傾斜している．そのため調査地の南東付近を境界として，少しうねるような構造となっていると推定される．

#### <湧水等について>

湧水の見られる露頭は，調査地北西のA区西側の切土面である．崖下から数m付近から地下水の浸出が広範囲に見られ，部分的に湧水が見られる．1箇所の湧水地点からの湧水量は4.0ℓ/分で化学臭を帯びているため，上方A地区の汚染水である可能性が高い．

B地区の南側は，東 - 西方向の沢地形であるが，降雨時に表流水が見られる程度である．W1の上方では侵食地形が見られるが涸れ沢であり，下方に従い湿地が広がっている．沢の流れが確認できるのはW1付近であり，下流側では40ℓ/分程度の流量がある．化学臭を帯び，沢底は赤褐色に変色しているが，現地分析でVOCは検出されていない．

凡例

地質時代	地質	記号	記号
新第三紀	堆積物	Wa(b)	木材繊維を主体とする
	焼却灰	Wa(a)	焼却灰を主体とする
	RDF	Wa(r)	固形肥料を主体とする
	汚泥	Wa(o)	汚泥類を主体とする
	混合土	Wa(m)	廃棄物と土質の混合物
第四紀	埋土	b	パーオおよび混合土を主体とする 廃棄物を含み埋土および廃棄物の覆土 至ローム質の土質
	産維維積物	dt	山裾や谷沿いに分布する軟質で細い礫・砂・粘性土
	降下火砕物2	a2	パミス、スコリア等を主体とする火山性噴出物 で軽石、浮石を含む未固結層
新第三紀	降下火砕物1	a1	ロームを主体とし火山灰も含む細粒の火山性 噴出物からなる未固結層
	火砕流堆積物 凝灰岩	Pf	当該地においては凝灰岩に相当する、硬質な 礫の混入体を含む土体に軟質が固結層
	凝灰角礫岩	Tb	礫の不均一な埋置安山岩層を多く含む、 トングスは凝灰質で全体に軟質が固結層

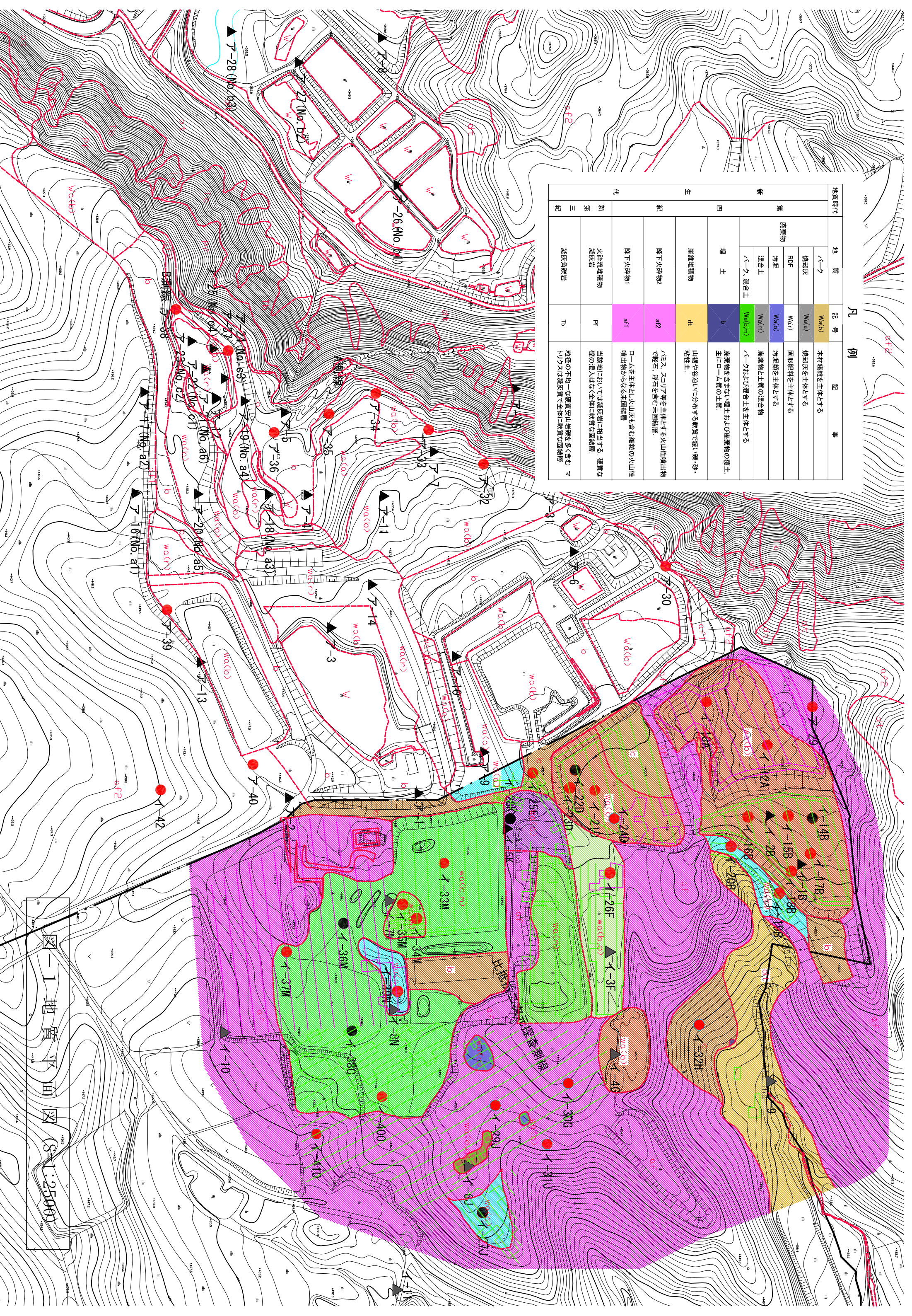
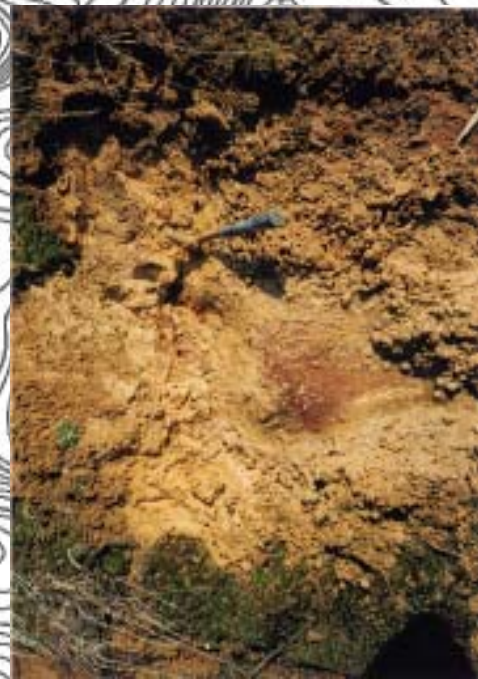


図-1 地質平面図 (S=1:25000)



P3. 区域北部の青森・岩手県境付近の崖  
ローム主体で火山灰薄層が狭在。層境界より43%分の湧水があり、浸出箇所は油性の臭気を帯びる。層理面の走向・傾斜はN50°W, 15~25°SW.



P10. B区北端の尾根筋の露頭  
均質なパミス、風化パミスが分布する。層理面の走向・傾斜はN12°E, 15°W.



P11. B区の廃棄物  
パーク片が主体で自動車部品、塗料缶、ビニール、ガラス片が混入する。



P17. 建屋東方の露頭  
ローム・パミスの互層で単層の厚さは約50cm程度。この高さではやパミスが優勢。層理面の走向・傾斜はN75°W, 12°S.



P7. イ-9の沢の状況  
流路はバクテリアにより様に赤変する。流量は40%程度で伏流しており、周囲は湿地帯である。全体に油臭を帯びる。

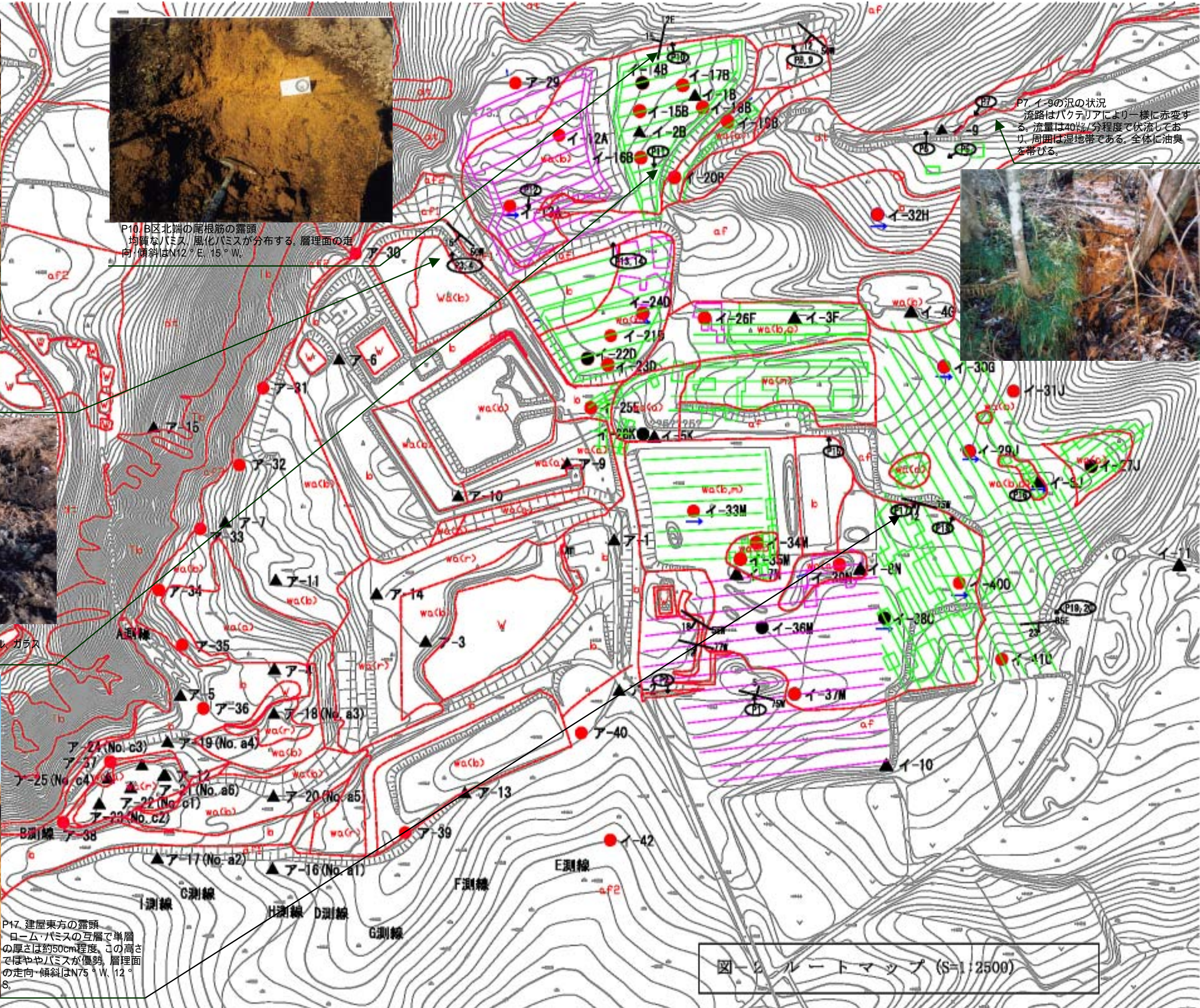


図-2 ルートマップ (S=1:2500)